

お知らせ: 次回発信日は8月15日週報(予定)

Jミルクが2024年7月30日に公表した「需給見通し(※2024年5月迄実績)」の予測値と実績(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・6月の生乳需給実績について、飲用等向(日均量)は暑さの影響などで若干上向いたものの前年同期比では▲0.1%で着地した。一方、生乳供給量(日均量)は、北海道などで乳牛の分娩のズレが生じ▲0.4%と5カ月ぶりに前年を下回った。このため、乳製品向(日均量)も▲0.1%と5カ月ぶりに前年を下回った。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が5月下旬に▲0.4%(日均量)と約4カ月ぶりに前年を下回り、その後7月下旬まで前年割れが続いている。ただし、減少幅は6月下旬をピークに縮小しつつある。都府県では、記録的な猛暑などを背景に6月中旬以降、前年割れが続いている。

・生乳供給量の減少などの影響で、脱脂粉乳の6月の生産量は▲4.0%と7カ月ぶりに前年を下回った。推定出回り量は、在庫低減対策の効果もあって+3.8%と2カ月連続で前年を上回り、在庫量は前月から0.4千ト程度減少し54.1千トとなった。他方、バター生産量は▲6.8%、推定出回り量は▲16.0%となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.0千ト)も考慮すると、在庫量は前月とほぼ同水準で推移し、28千ト(▲6.2%)となった。在庫量は26カ月連続で前年を下回っている。12月の取引乳価引き上げに伴うバターなどの製品価格改定は2月中旬ごろをピークに落ち着いたものの、販売個数は伸び悩んでいる。

・牛乳類の7月の販売動向について、気温の上昇などを背景に前月より販売個数は伸びたものの、前年比では95.3%と低迷が続いている。ただし、直近(7/29週)の販売個数は牛乳が100.6%と7週ぶりに前年を上回った。要因としては、昨年8月1日の飲用乳価改定から1年が経過し一巡したためと推察される。2022年度の同期比では93.7%、2021年度比では90.6%となっており、引き続き牛乳類の需要拡大に向けた取り組みが求められる。

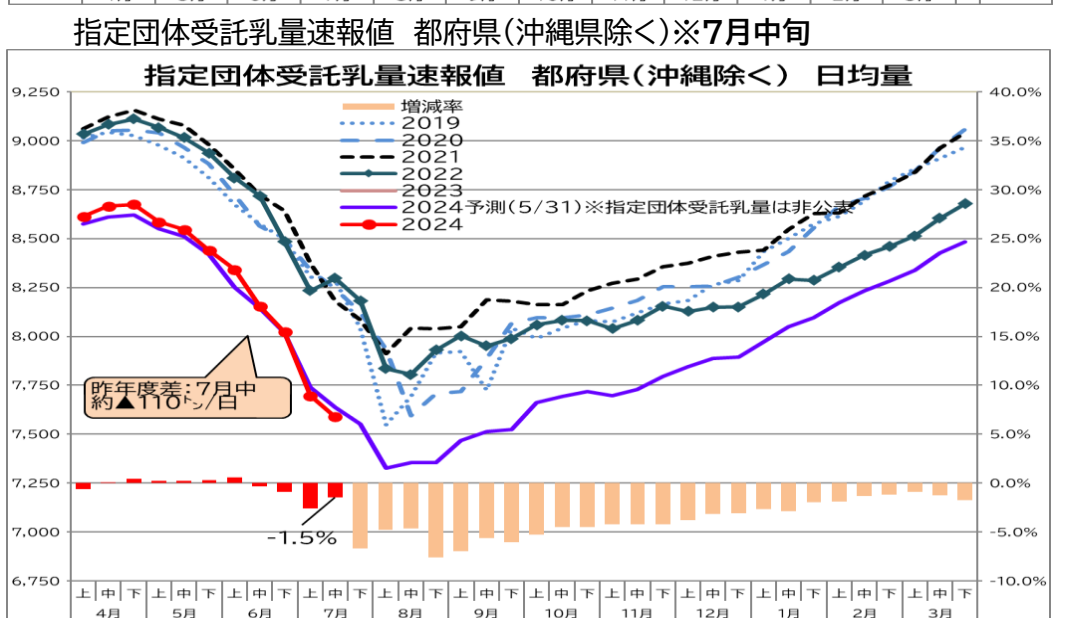
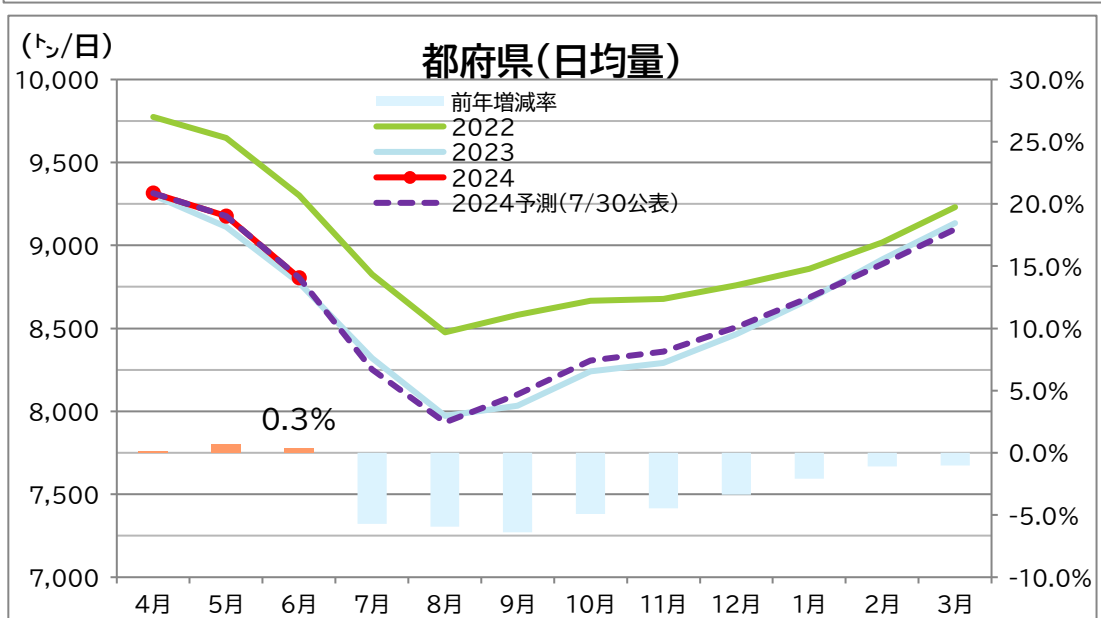
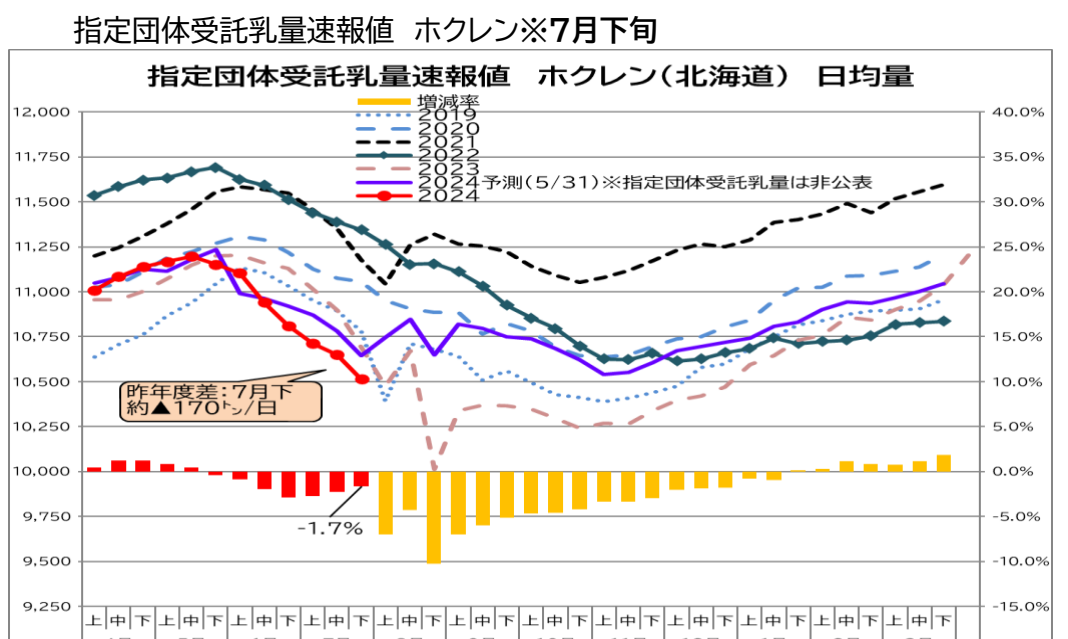
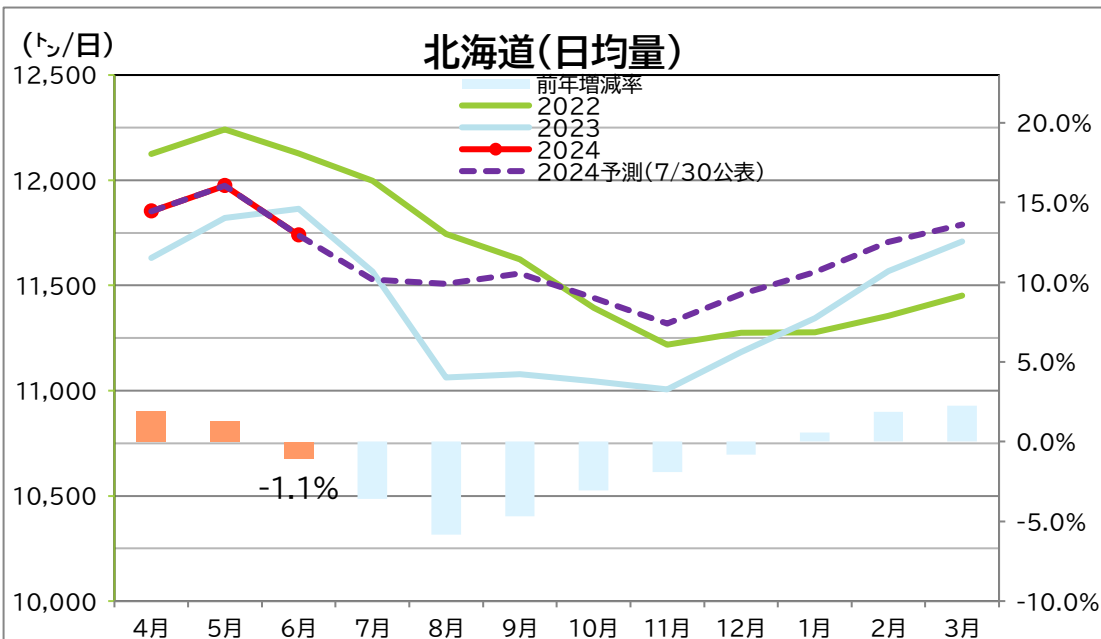
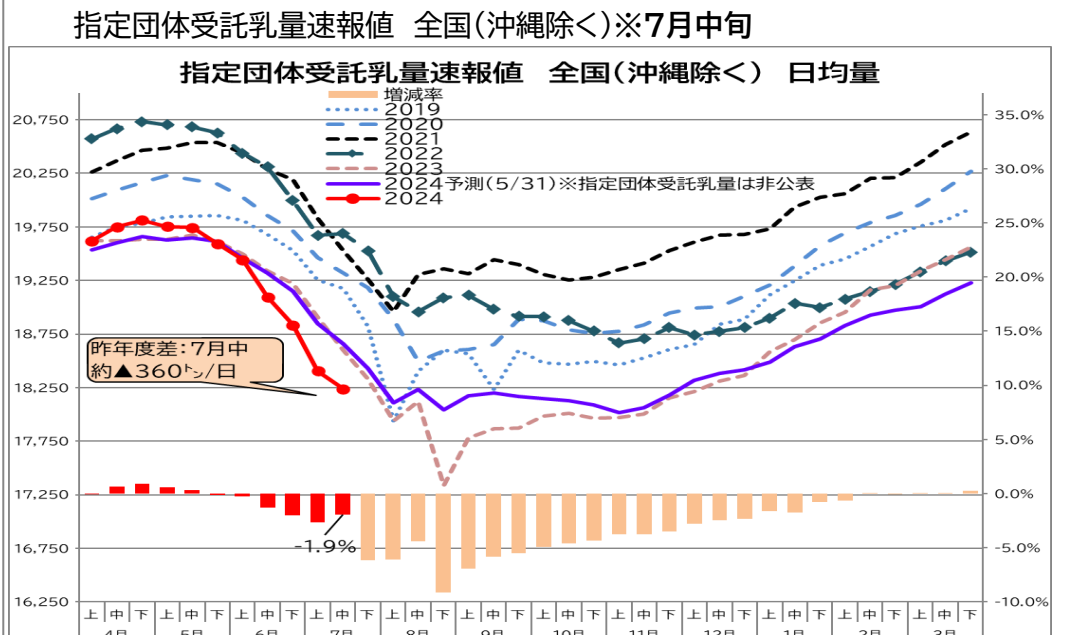
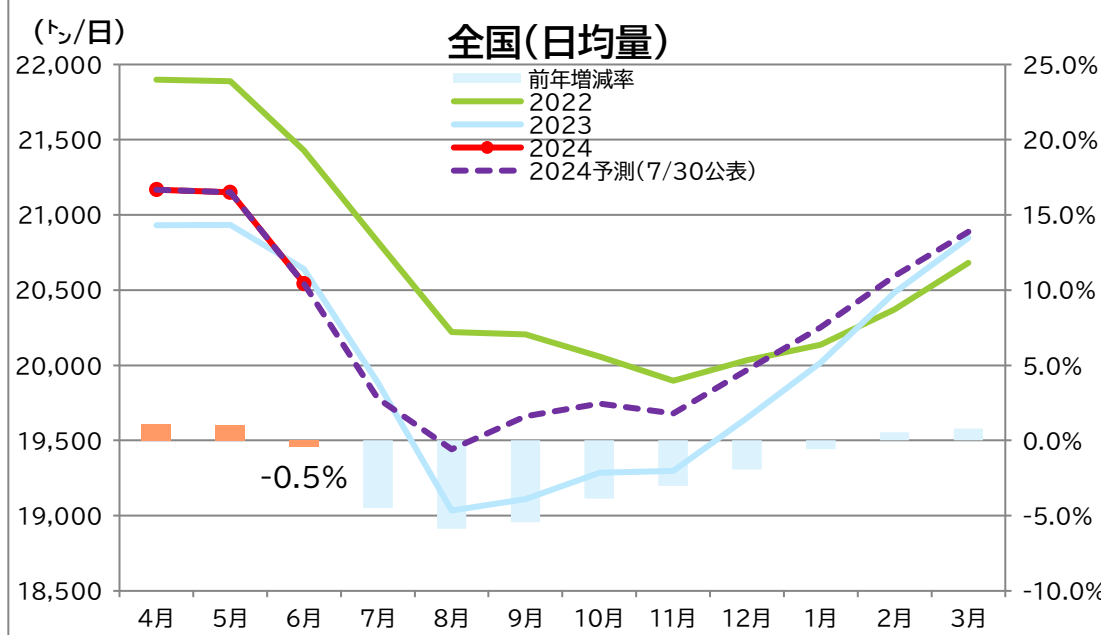
・はっ酵乳の販売個数は、5月ごろから1週ごとに増加と減少を繰り返す一進一退の状況が続いている。前年との比較では、大容量タイプが上回ったもののドリンクタイプと個食タイプが下回り、トータルでも前年割れとなった。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の生乳生産量は、全国616.3千ト(前年同月比99.5%)、北海道352.2千ト(同98.9%)、都府県264.2千ト(同100.3%)。

(2)5月に公表したJミルク予測値(全国626.3千ト、北海道362.2千ト、都府県264.1千ト)との比較は北海道が下振れした一方、都府県はほぼ同水準となった。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が7月中旬で同98.1%、都府県(沖縄除く)が同98.5%、北海道は7月下旬で同98.3%となった。

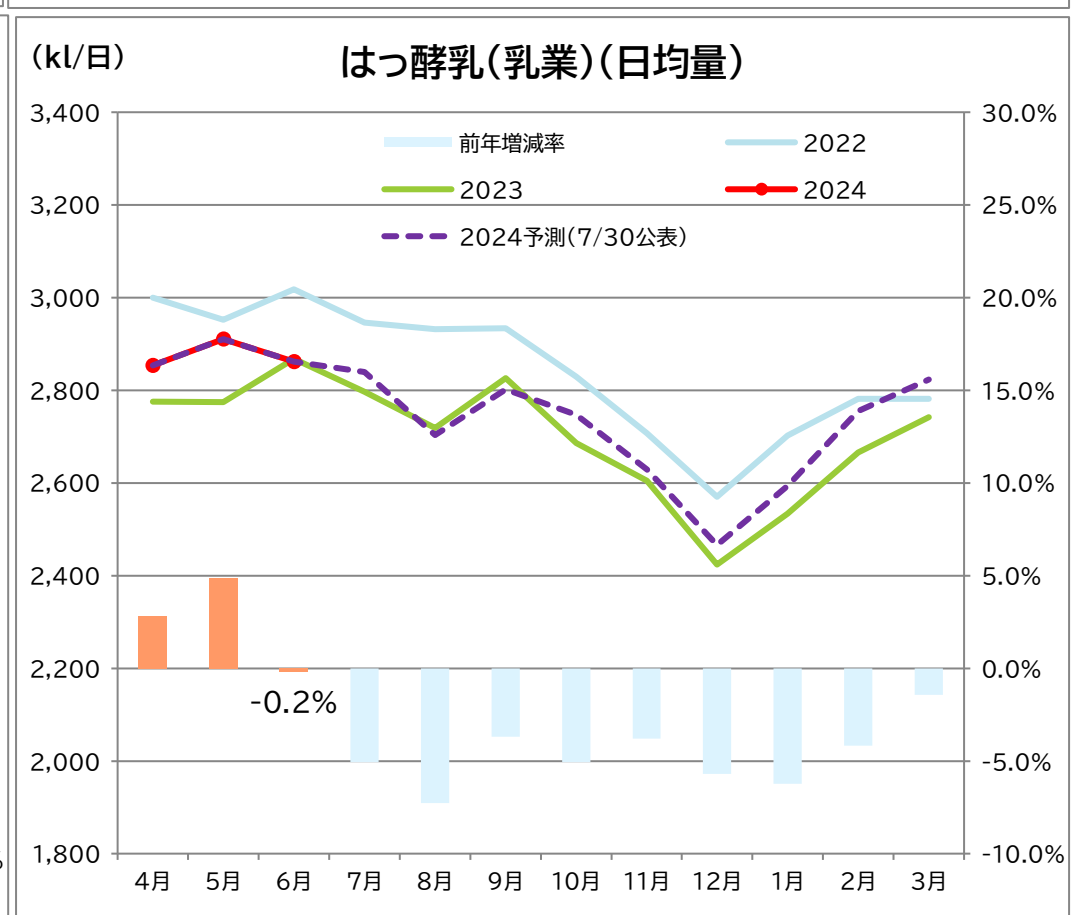
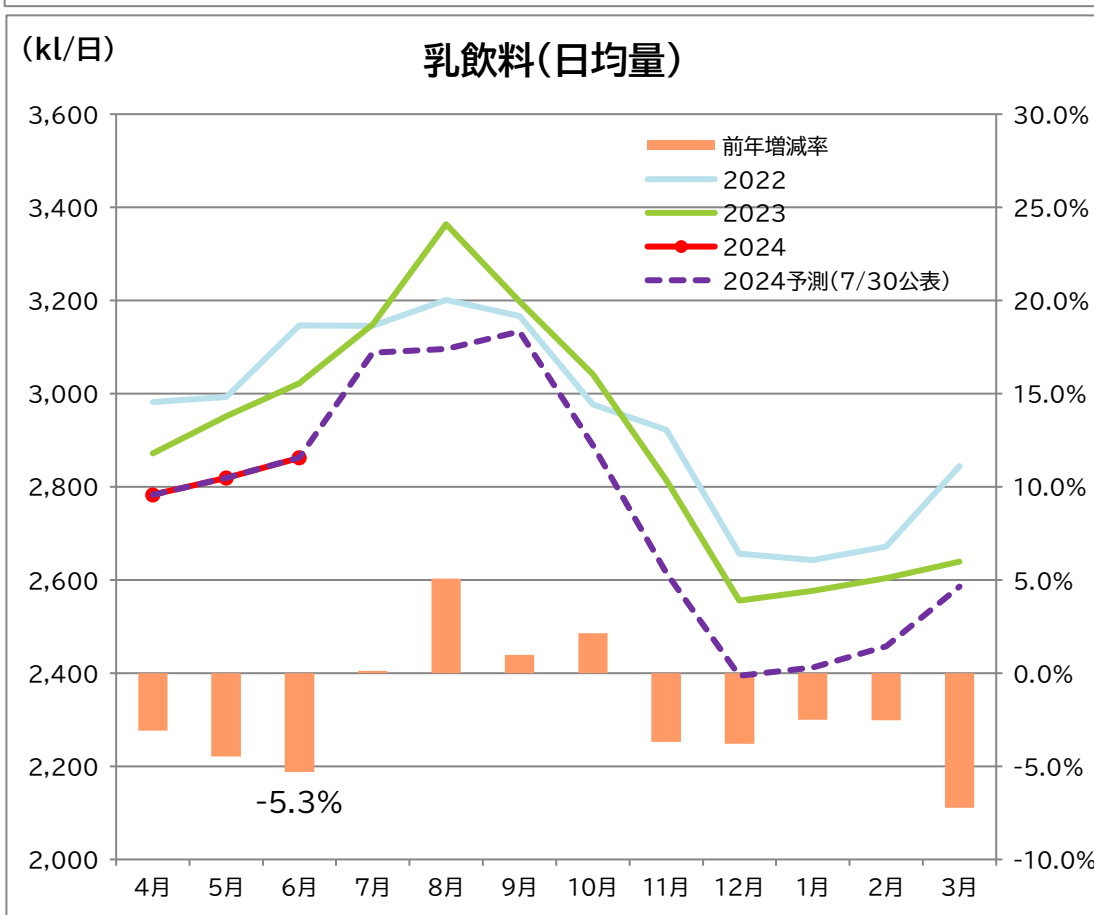
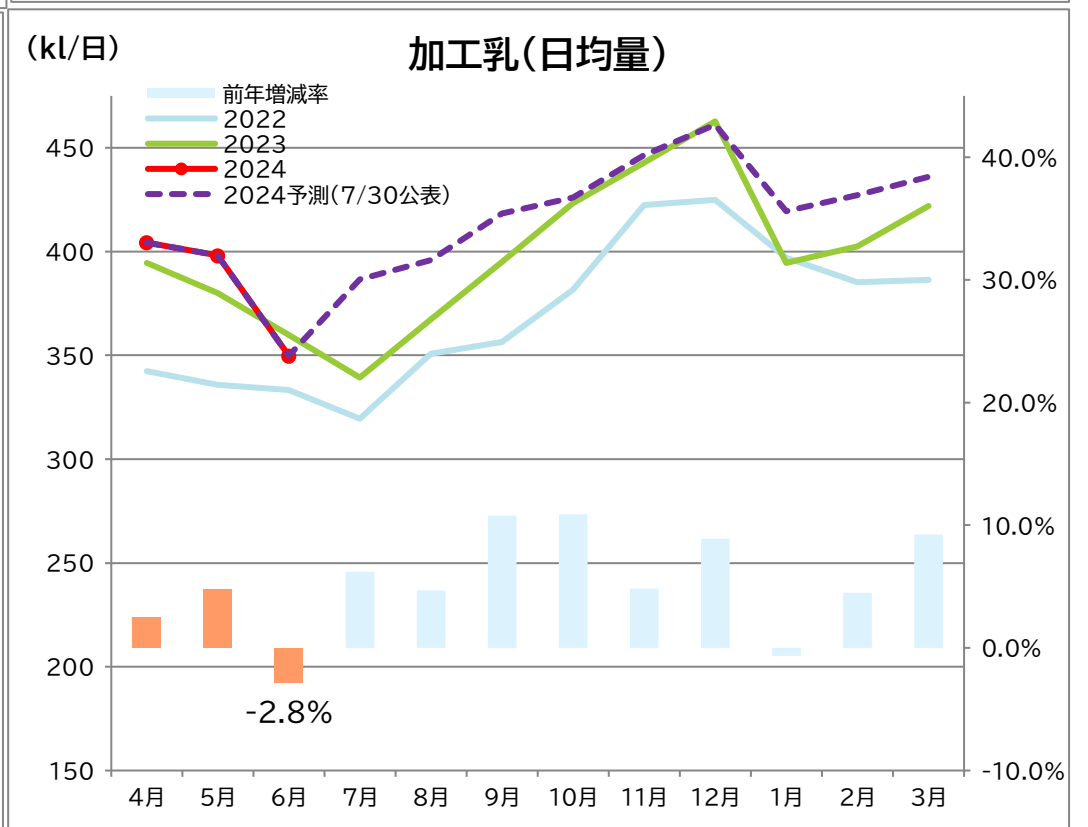
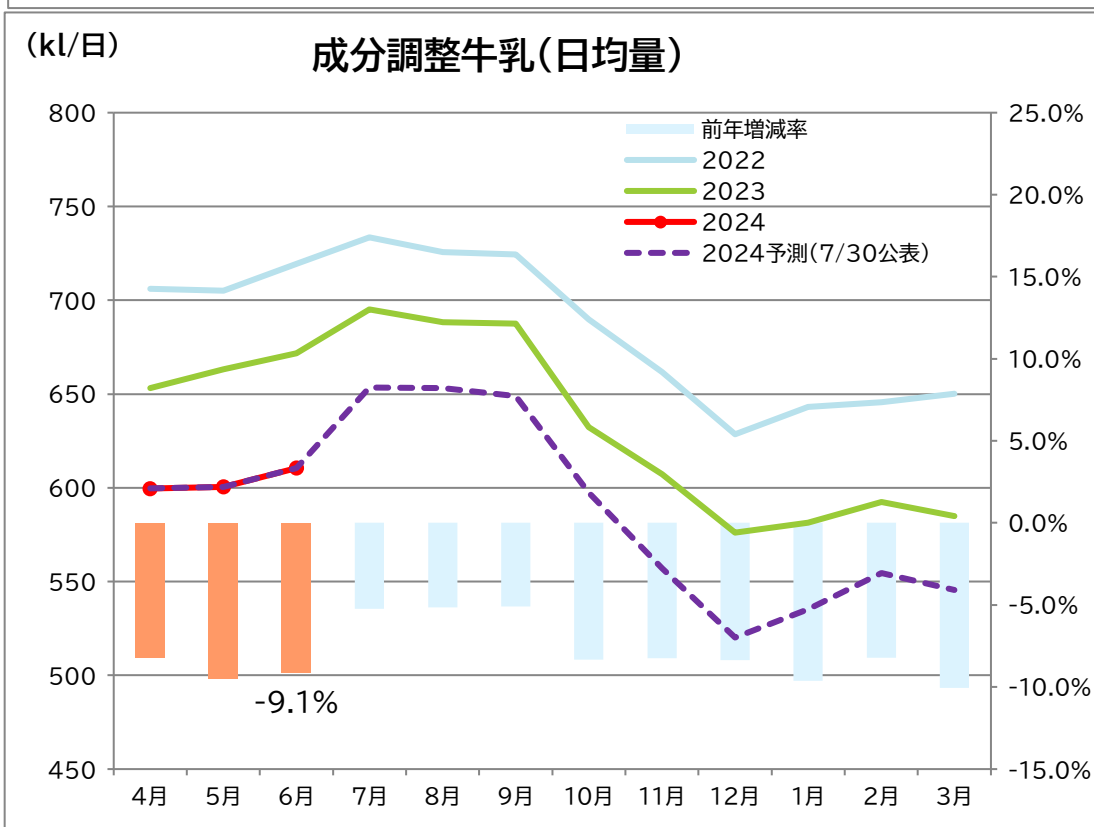
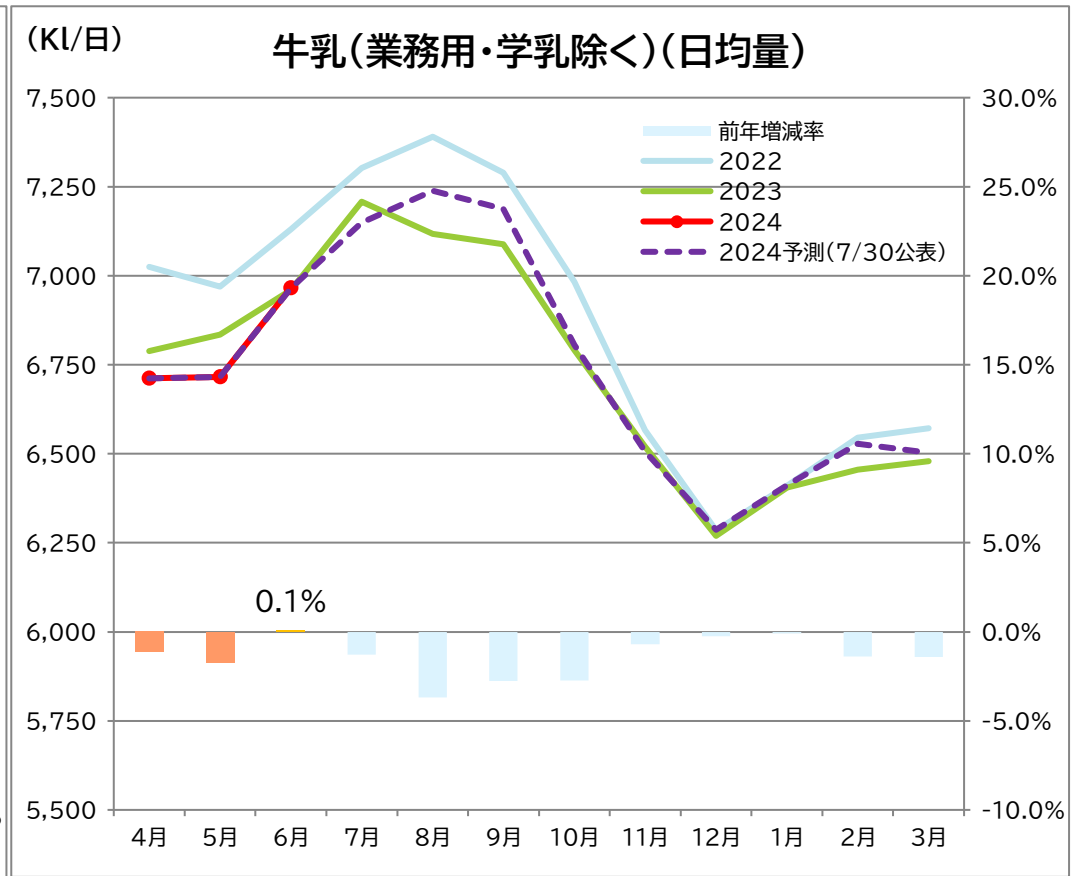
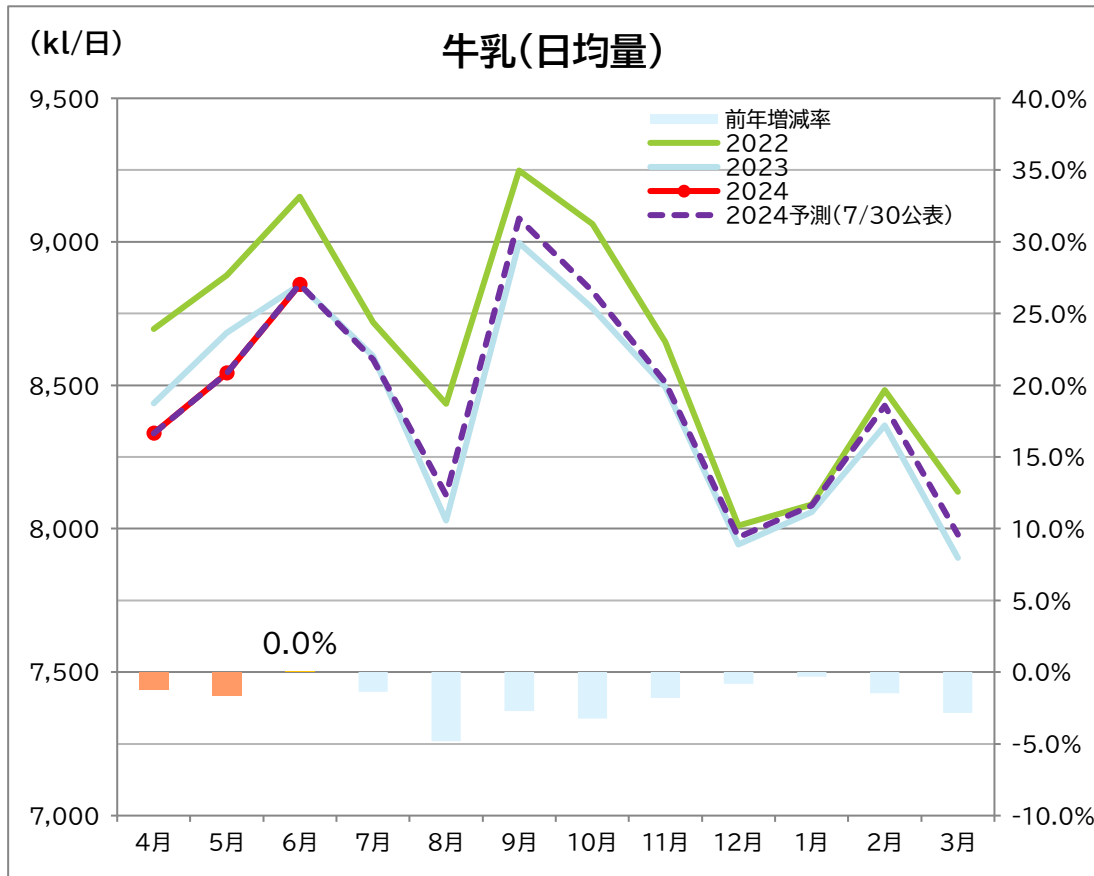


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の牛乳等生産量は、牛乳265.5千kl(前年同月比100.0%)、成分調整牛乳18.3千kl(同90.9%)、加工乳10.5千kl(同97.2%)、乳飲料85.9千kl(同94.7%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、380.2千kl(同98.2%)となり、19カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.1%、「業務用」は同104.8%、「学乳」は97.1%。

(3)はっ酵乳(乳業)は85.9千kl(同99.8%)と3カ月ぶりに前年を下回った。はっ酵乳(非乳業:5月実績)は96.5%となった。

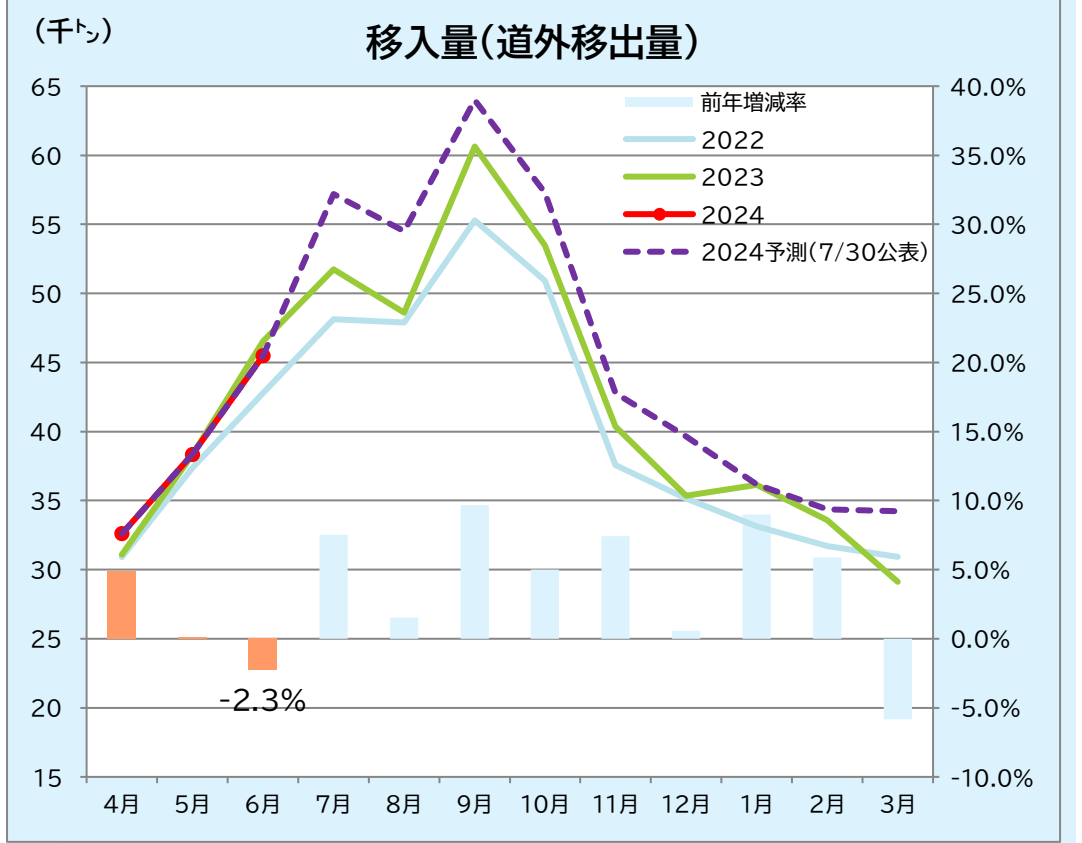
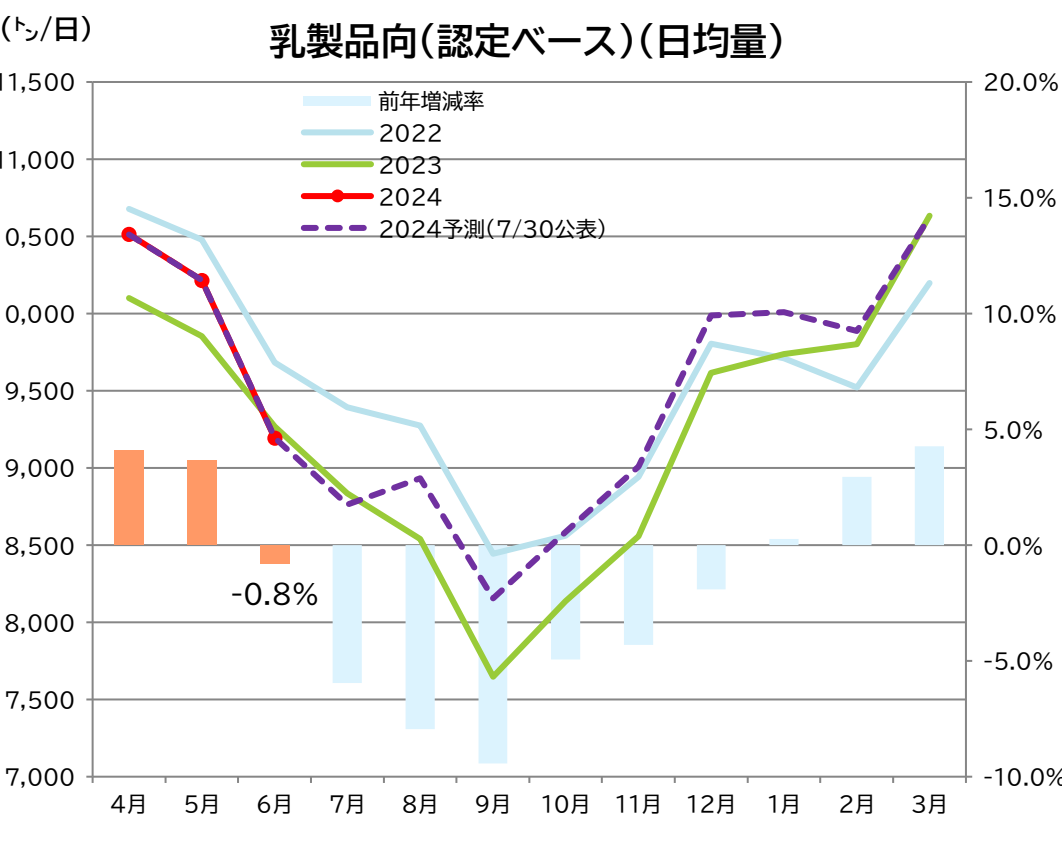
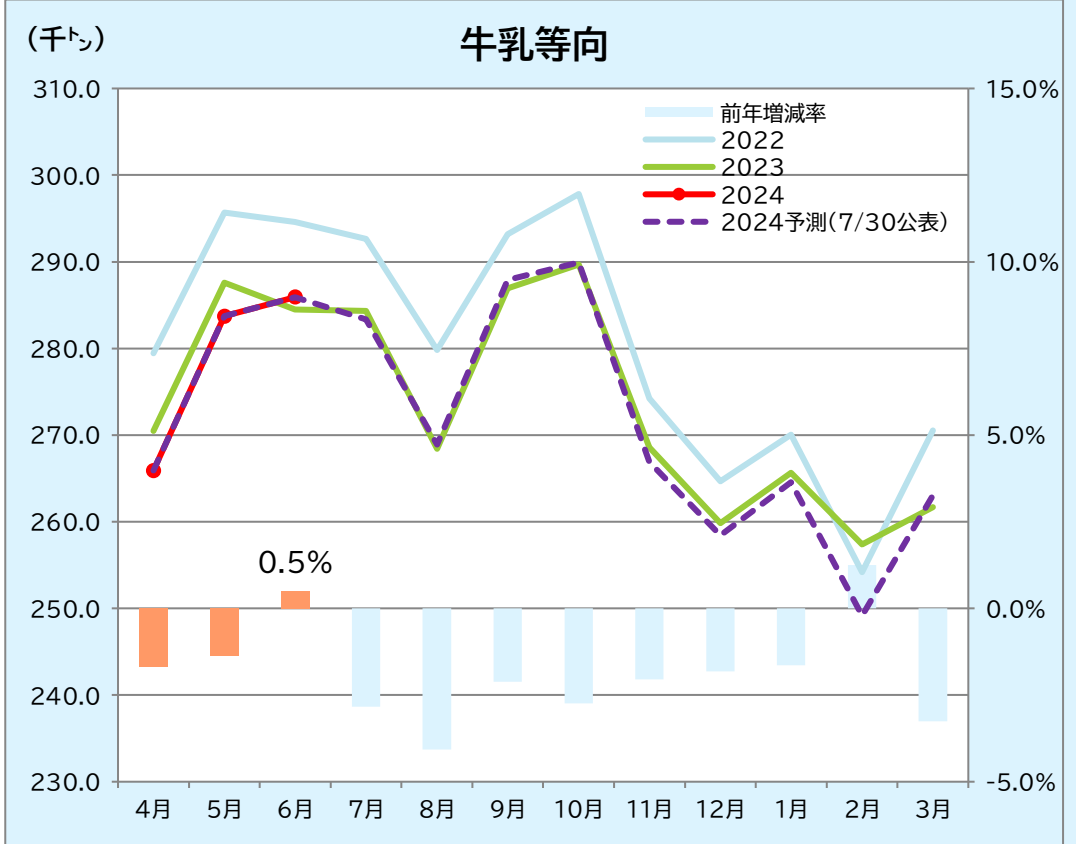
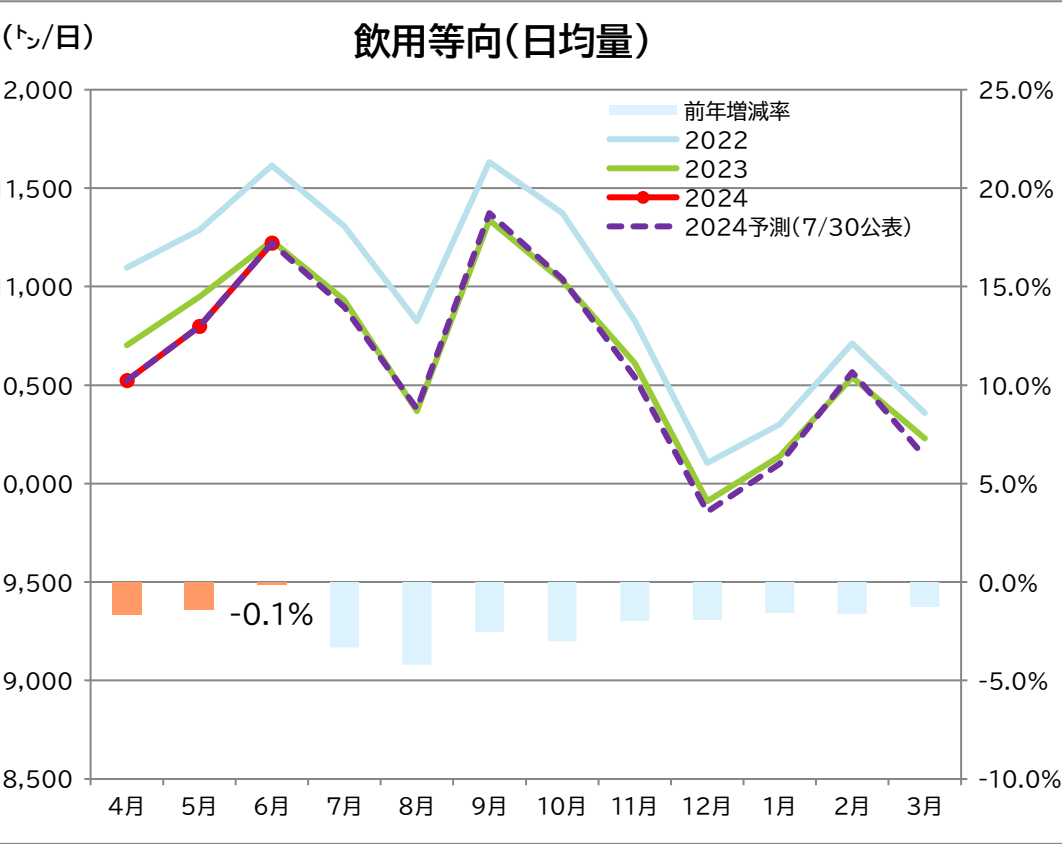
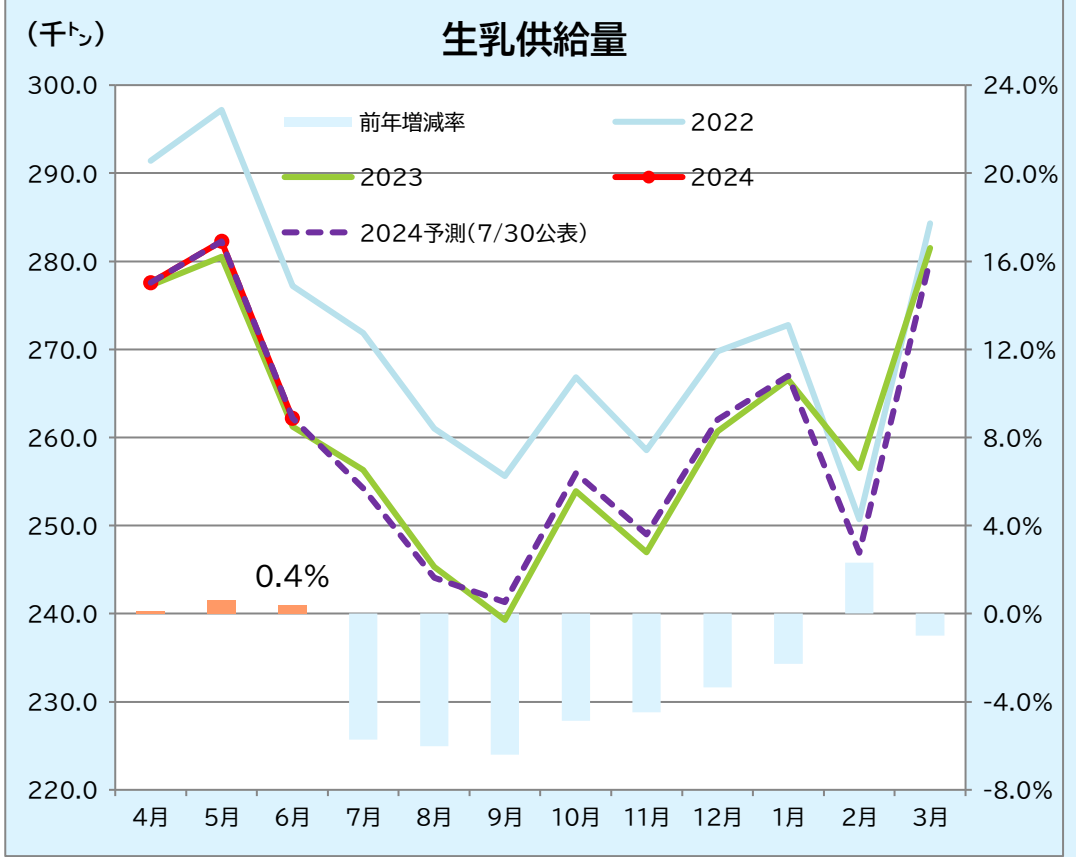
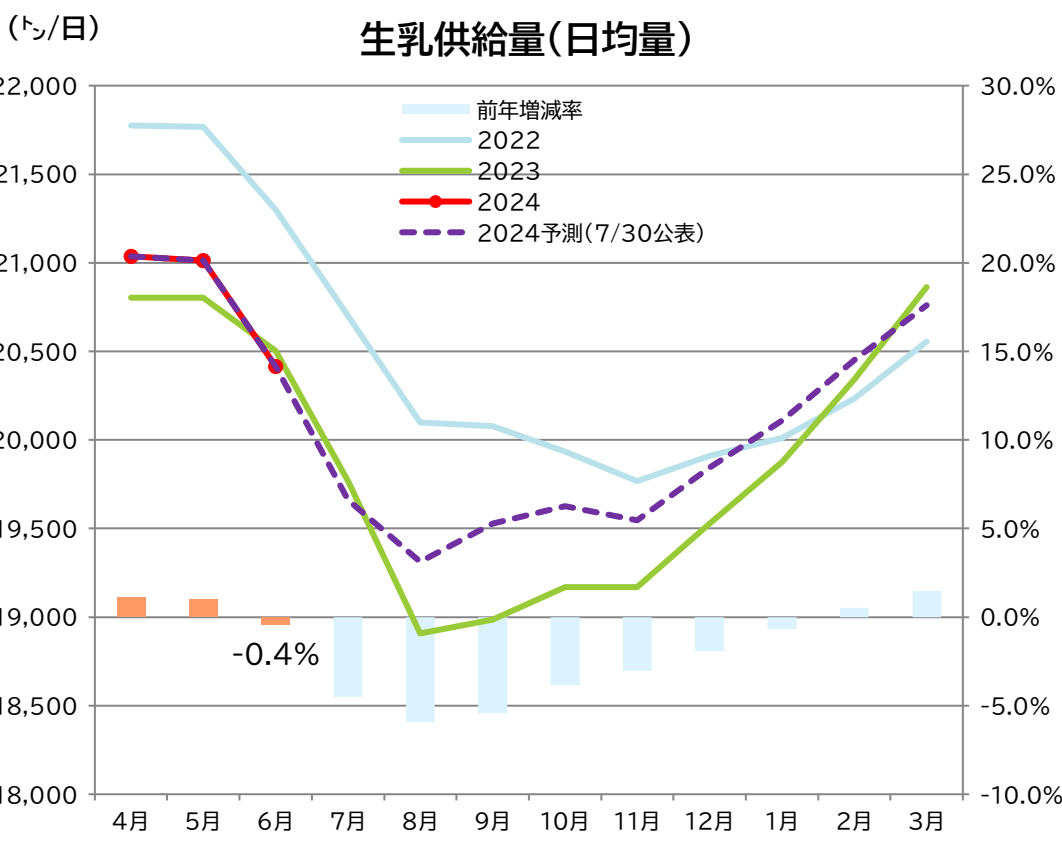


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の生乳供給量は612.4千ト(前年同月比99.5%)、飲用等向336.6千ト(同99.8%)、乳製品向(認定ベース)275.8千ト(同99.2%)。
 (2)飲用等向が前年を下回った一方、生乳供給量も前年を下回り、結果として乳製品向も前年を下回った。
 (3)5月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:622.2千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:335.3千ト)は上振れし、乳製品向(予測値:287.0千ト)は下振れした。

【都府県の生乳需給】

(1)6月は、生乳供給量262.2千ト(前年同月比100.3%)、牛乳等向285.9千ト(同100.4%)。
 (2)北海道からの移入量については45.5千ト(同97.7%)と前年を下回った。
 (3)5月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:262.1千ト)はほぼ同水準だった一方、牛乳等向(予測値:283.0千ト)はやや上振れしたが、北海道での生産量減少などの影響を受け移入量(予測値:47.4千ト)はやや下振れした。

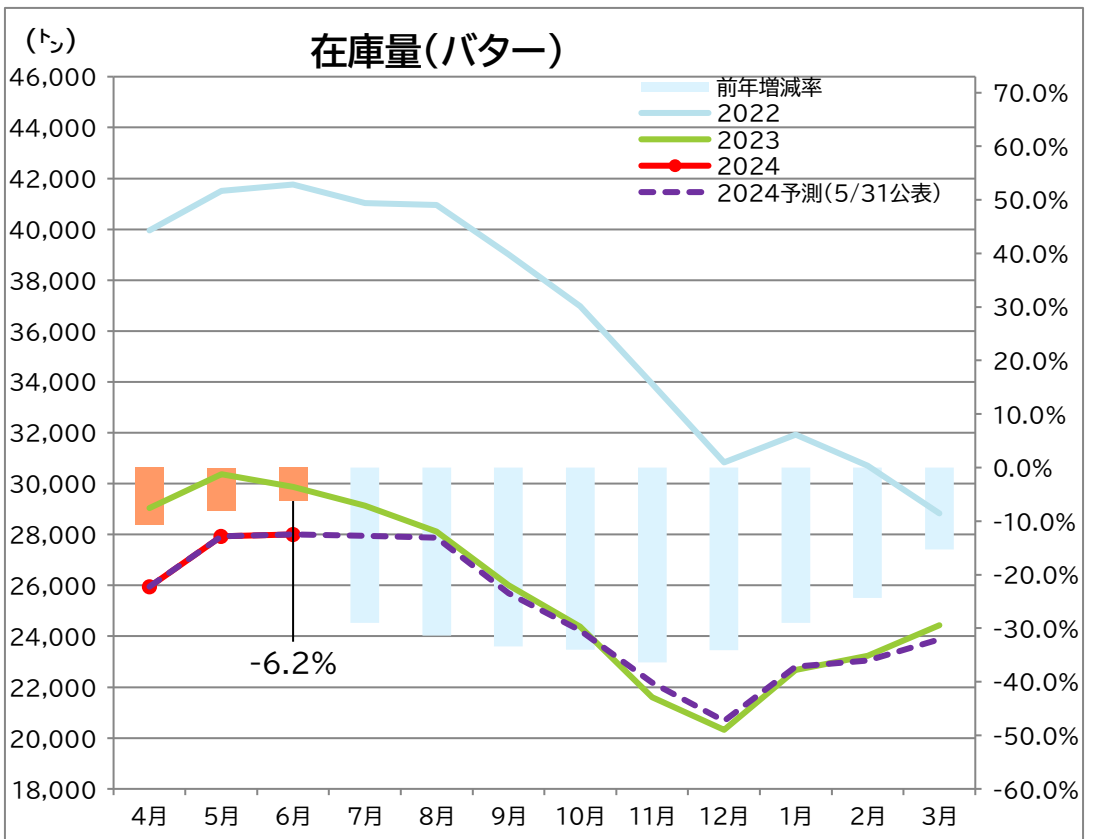
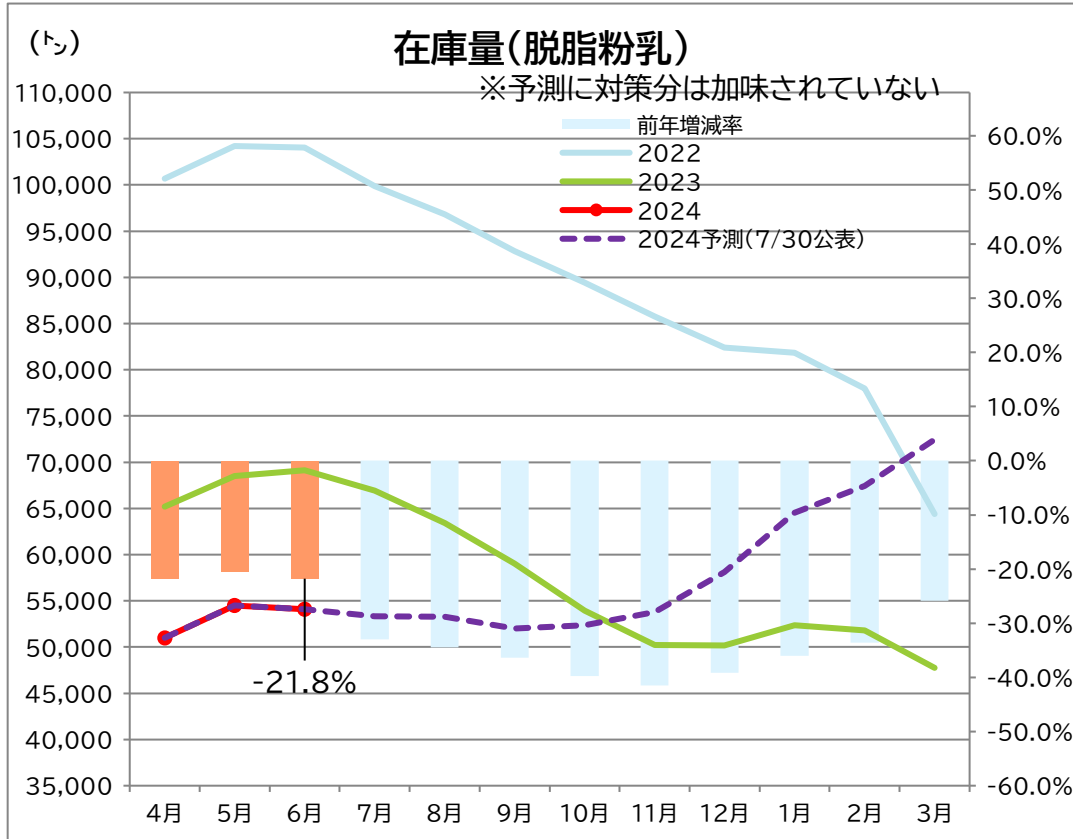
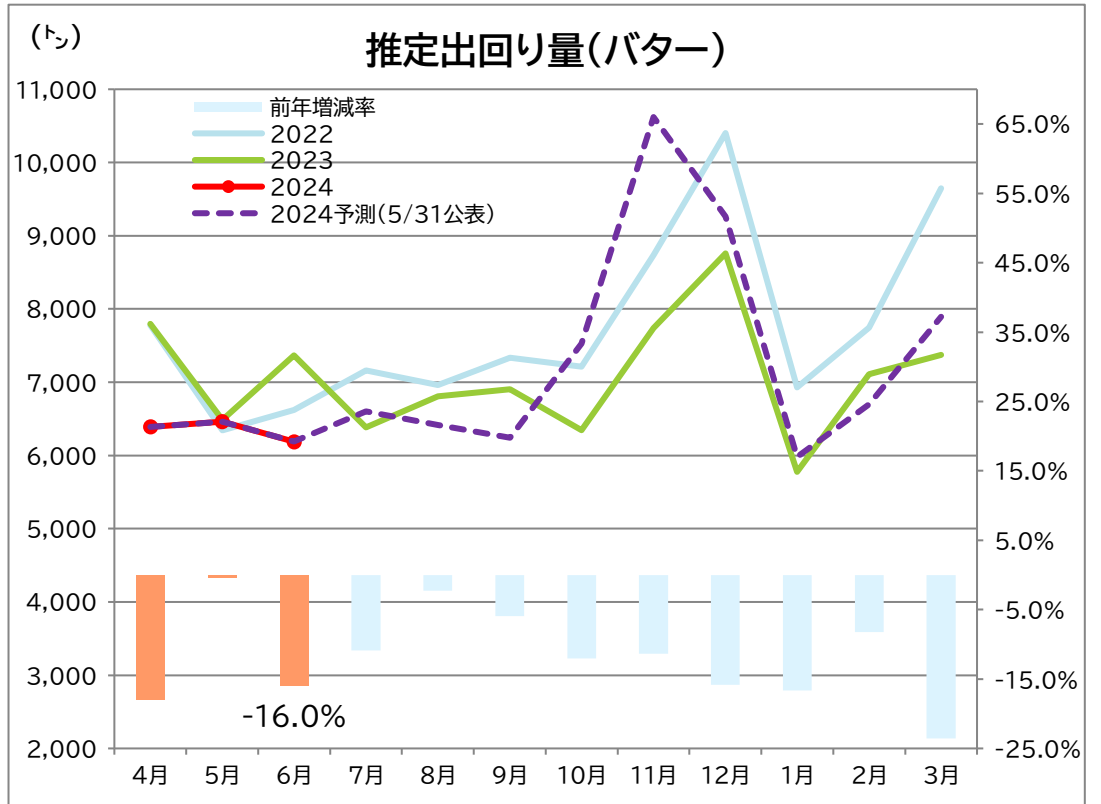
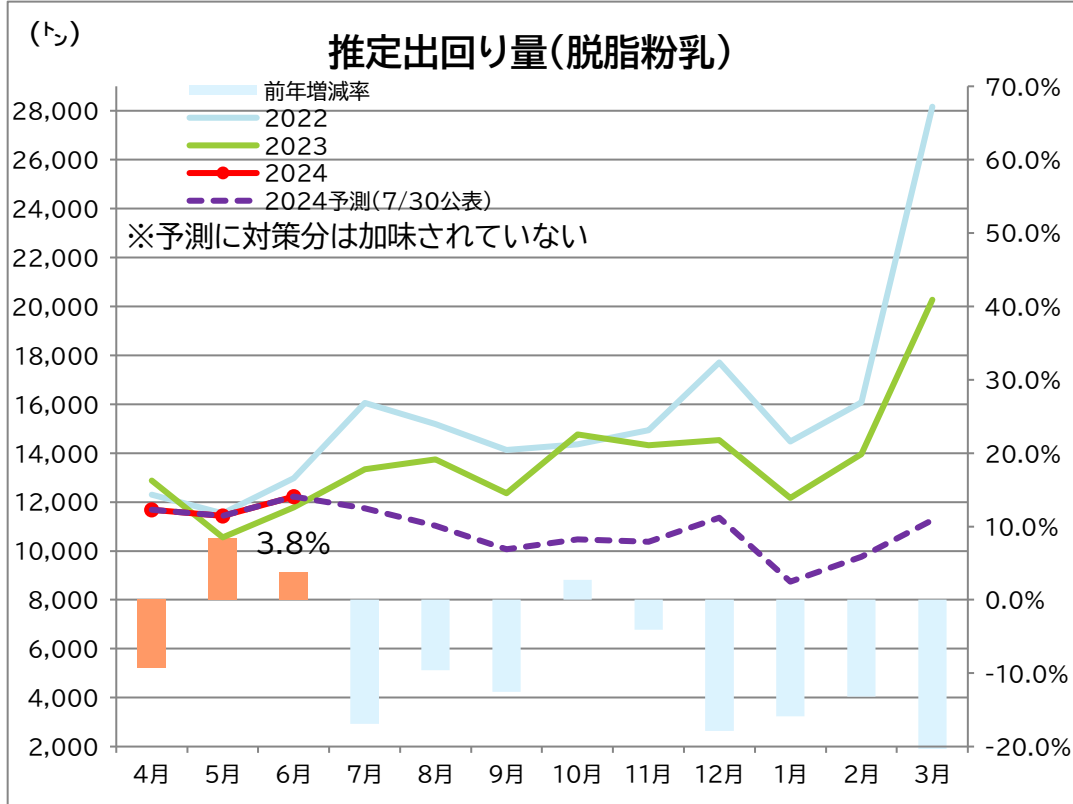
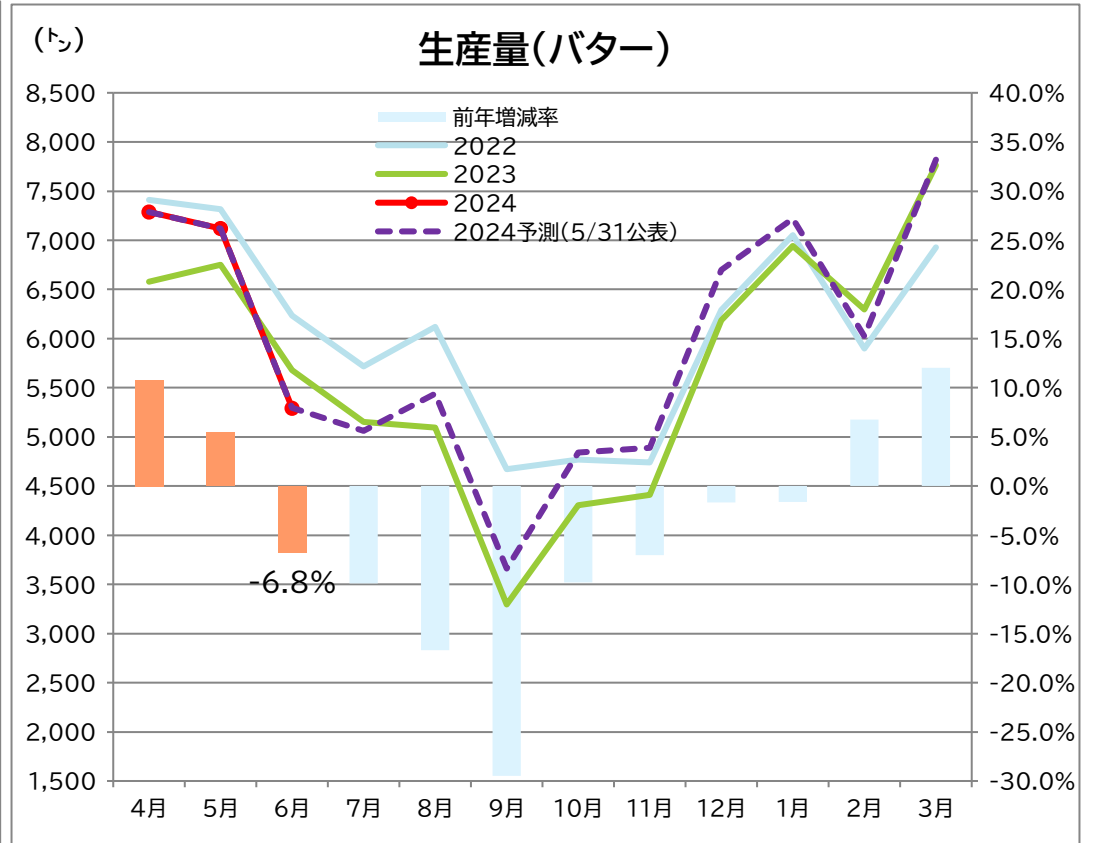
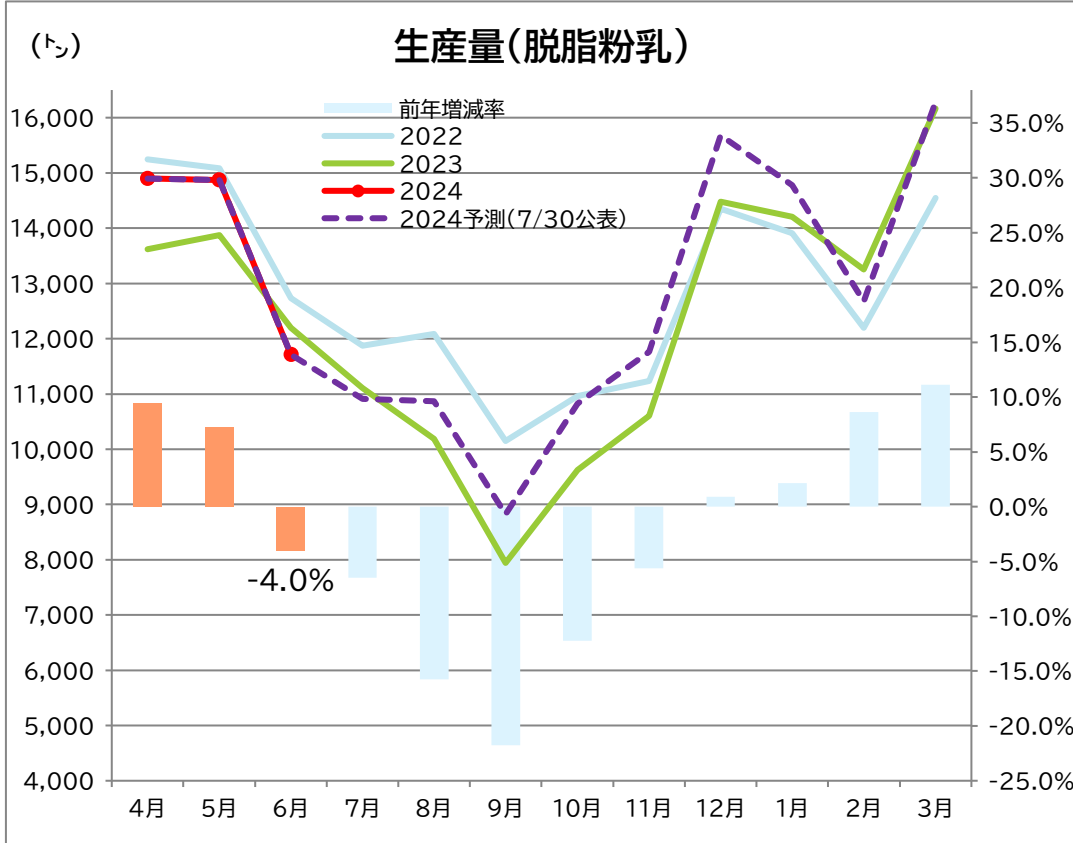


【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、6月の生産量は11.7千ト(前年同月96.0%)、推定出回り量は12.2千ト(同103.8%)となった。出回り量が生産量を上回ったため、在庫量は前月から0.4千ト程度減少し、54.1千ト(同78.2%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱バ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には2018年11月以来、約5年振りに5万ト台となり、2024年3月には約8年振りに4万ト台となっていた。 ※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、6月の生産量は5.3千ト(同93.2%)、推定出回り量は6.2千ト(同84.0%)となった。バターの生産量が前年同期比を下回るのは7カ月ぶり。国家貿易による輸入売渡分(約1.0千ト)も考慮すると、在庫量は前月とほぼ同水準で推移し、28千ト(同93.7%)となった。在庫量は26カ月連続で前年を下回っている。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限取り進める必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)7月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比95.4%、成分調整牛乳:同84.3%、加工乳:同109.2%、乳飲料:同97.7%。牛乳類全体:同95.3%

【参考】2022年6月比…牛乳:91.0%、成分調整牛乳:73.4%、加工乳:101.1%、乳飲料:96.0%(牛乳類トータル:90.6%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(7/29週)の販売個数は、牛乳:前年同期比100.6%、成分調整牛乳:同89.1%、加工乳:同111.0%、乳飲料:同97.0%。牛乳類トータルでは同99.5%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

※2024年6月のみ、販売データの対象となる業態についてホームセンターのうちディスカウント型店舗が対象外となっております。

販売本数の前年比は、過去のデータも同じ業態にそろえて比較しております。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

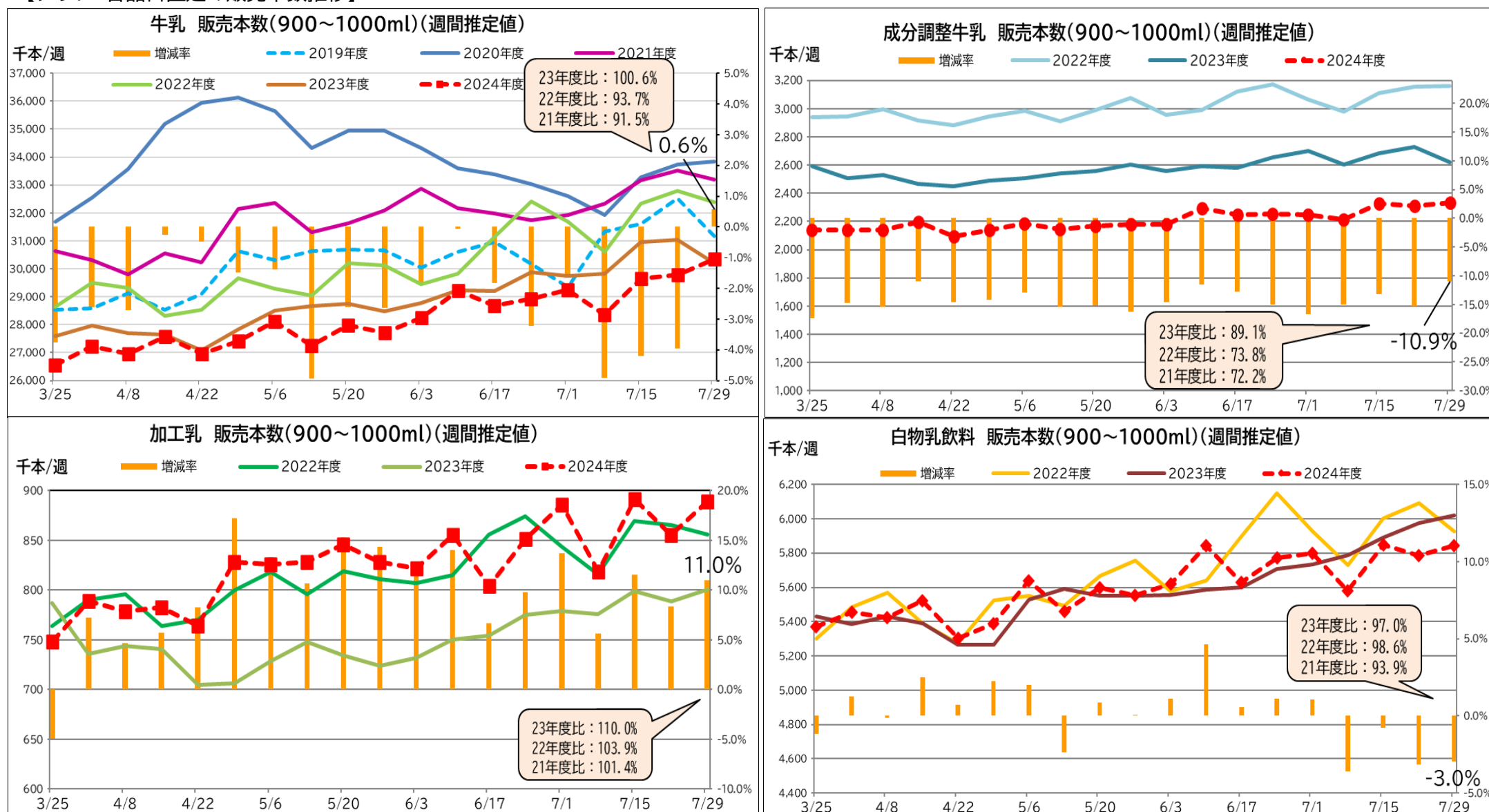
単位:千個、円

品目	区分	2024/2-	2024/3-	2024/4-	2024/5-	2024/6-	2024/7-	2024/7- 2022/10価格差	2024/7- 2023/3価格差	2024/7- 2023/7価格差
		販売個数	140,276	152,636	152,983	158,129	162,342	168,873		
トータル	販売個数前年比	99.8	97.4	97.6	96.4	101.1	95.3	32.9	17.8	16.0
	販売単価	216.6	216.2	215.7	215.8	215.6	216.0			
牛乳	販売個数	106,932	116,610	117,020	120,893	124,376	129,480			
	販売個数前年比	100.7	98.1	97.9	96.4	101.0	95.4	34.9	18.6	17.8
成分調整牛乳	販売個数	8,793	9,410	9,241	9,425	9,694	10,098			
	販売個数前年比	87.0	85.0	85.8	84.3	88.2	84.3	34.2	18.5	15.0
加工乳	販売個数	2,992	3,231	3,363	3,624	3,616	3,823			
	販売個数前年比	103.2	99.5	105.1	112.3	116.4	109.2	27.6	17.9	6.9
乳飲料	販売個数	21,559	23,385	23,360	24,188	24,655	25,472			
	販売個数前年比	101.1	99.1	100.7	99.6	105.5	97.7	23.6	13.0	9.3
	販売単価	173.7	173.7	173.5	173.3	173.1	173.1			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	6.10-	6.17-	6.24-	7.1-	7.8-	7.15-	7.22-	7.29-	24.7.29- 22.10.24 価格差	24.7.29- 23.3.20 価格差	24.7.29- 23.7.24 価格差
		販売個数	38,202	37,360	37,801	38,178	36,975	38,724	38,752	39,426		
トータル	販売個数前年比	101.0	98.8	97.7	98.0	94.8	96.0	95.6	99.5	32.9	18.0	15.6
	販売単価	215.7	215.8	215.9	215.8	216.4	215.5	216.3	216.1			
牛乳	販売個数	29,207	28,676	28,926	29,247	28,363	29,659	29,798	30,363			
	販売個数前年比	100.7	98.9	97.5	98.3	95.1	95.8	96.0	100.6	34.6	18.3	17.1
成分調整牛乳	販売個数	2,294	2,249	2,252	2,247	2,214	2,327	2,312	2,333			
	販売個数前年比	88.7	87.4	85.1	83.3	85.0	86.8	84.7	89.1	34.1	19.2	14.6
加工乳	販売個数	855	804	851	886	819	891	855	889			
	販売個数前年比	117.0	109.1	112.6	113.7	105.6	111.5	108.3	111.0	27.2	16.9	6.3
乳飲料	販売個数	5,845	5,630	5,772	5,798	5,579	5,846	5,787	5,842			
	販売個数前年比	106.6	102.5	102.9	101.1	96.4	99.3	96.9	97.0	23.4	13.6	8.9
	販売単価	173.4	173.1	172.8	173.3	173.1	173.2	173.0	173.1			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

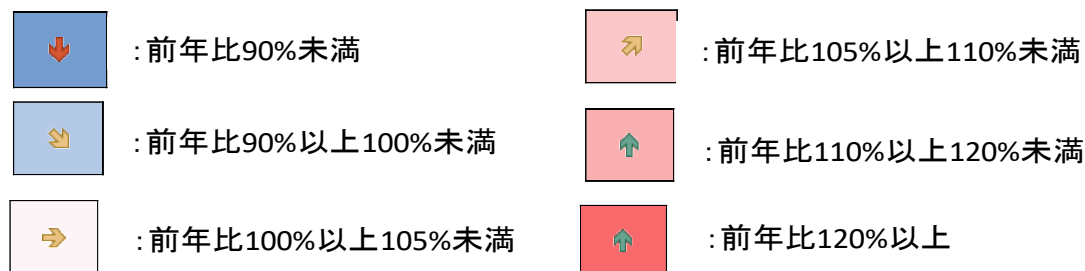
(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(7/29週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回る推移となっている。(3品目合計前年同期比:90%以上)。

(2)販売個数について、前週(7/22週)との比較では、ドリンクタイプと大容量タイプが増加した一方、個食タイプは減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

品目	6.10-	6.17-	6.24-	7.1-	7.8-	7.15-	7.22-	7.29-
ドリンクタイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘
大容量タイプ	→	↘	→	→	↘	→	→	→



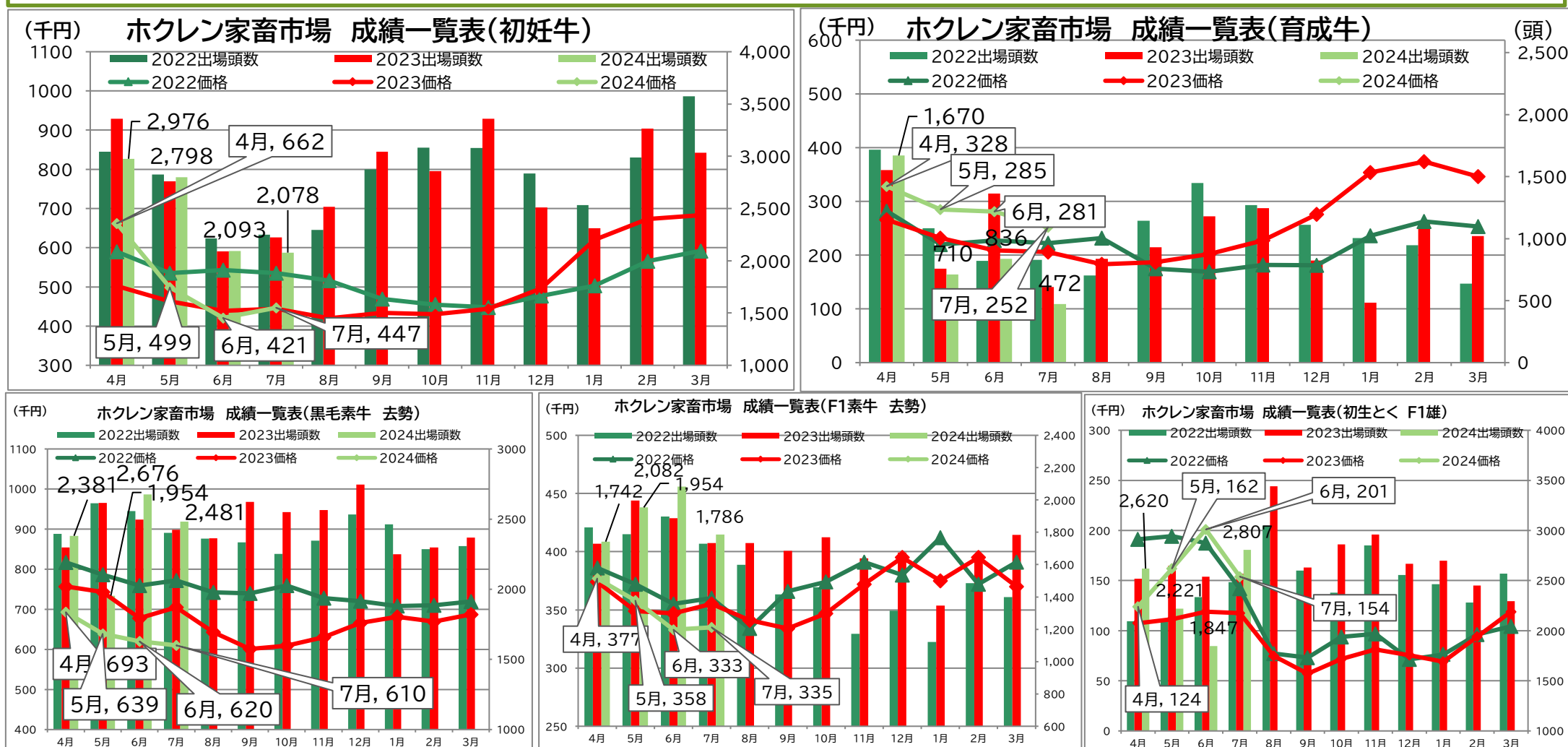
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)6月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は447千円(前年同期比100.7%)、育成牛価格は252千円(同122.3%)、和牛素牛(去勢)価格610千円(同86.5%)、F1素牛(去勢)価格は335千円(同94.4%)。初妊牛は3カ月連続で40万円台となり、育成牛についても3カ月連続で20万円台となった。ホル初生(雄)価格は60千円(同116.9%)と、2カ月振りに100千円を下回った(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同93.5%、育成牛:同77.4%、F1初生(雄):同109.3%、和牛素牛(去勢):同102.4%、F1素牛(去勢):同103.1%。

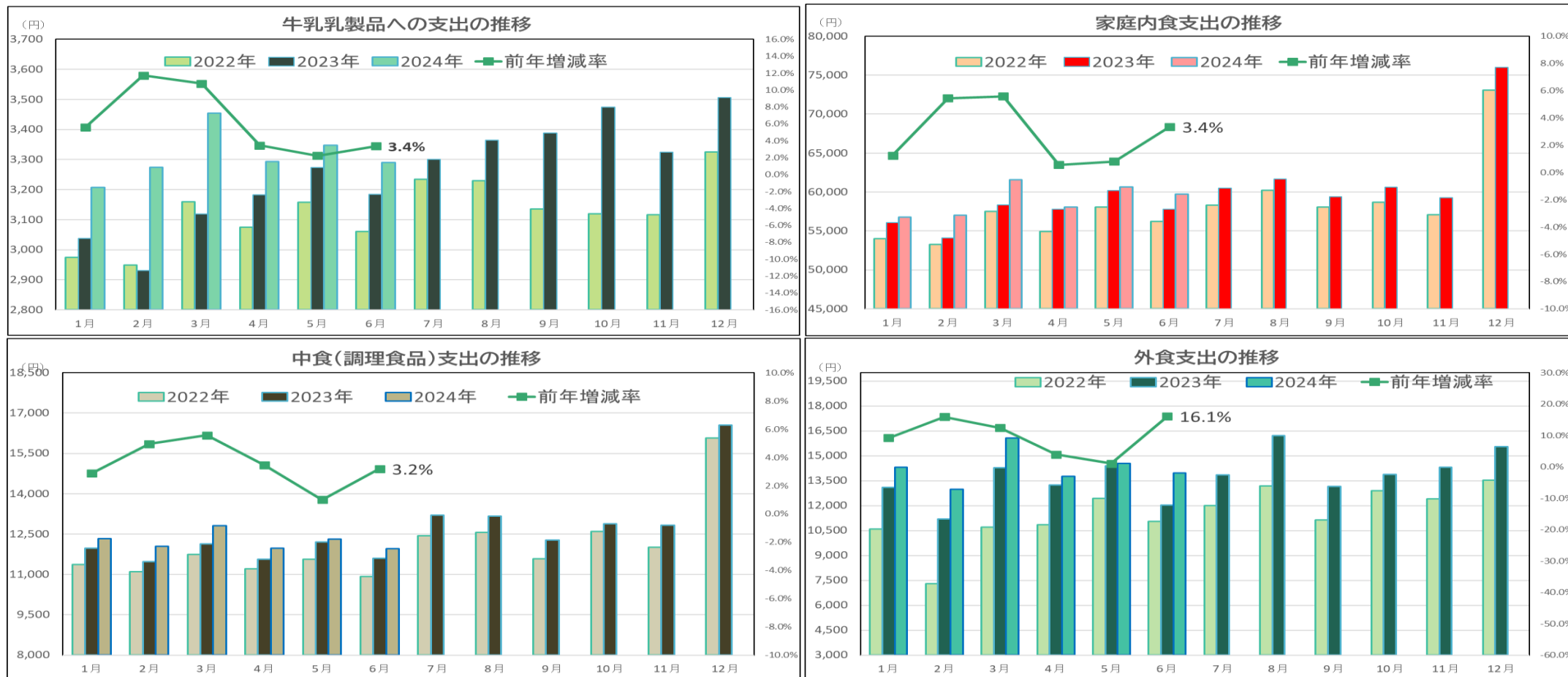
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



【家計支出の動向】

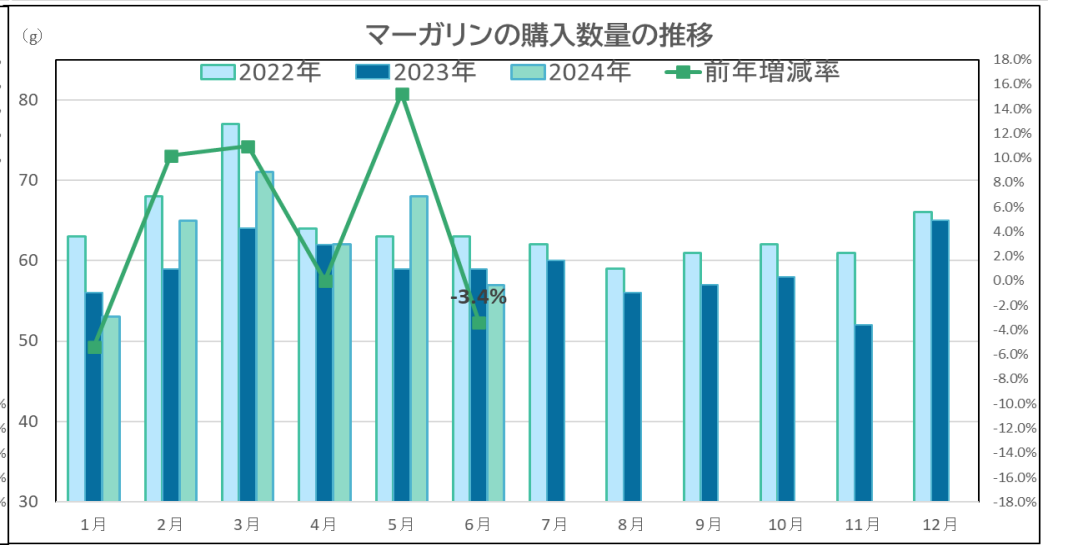
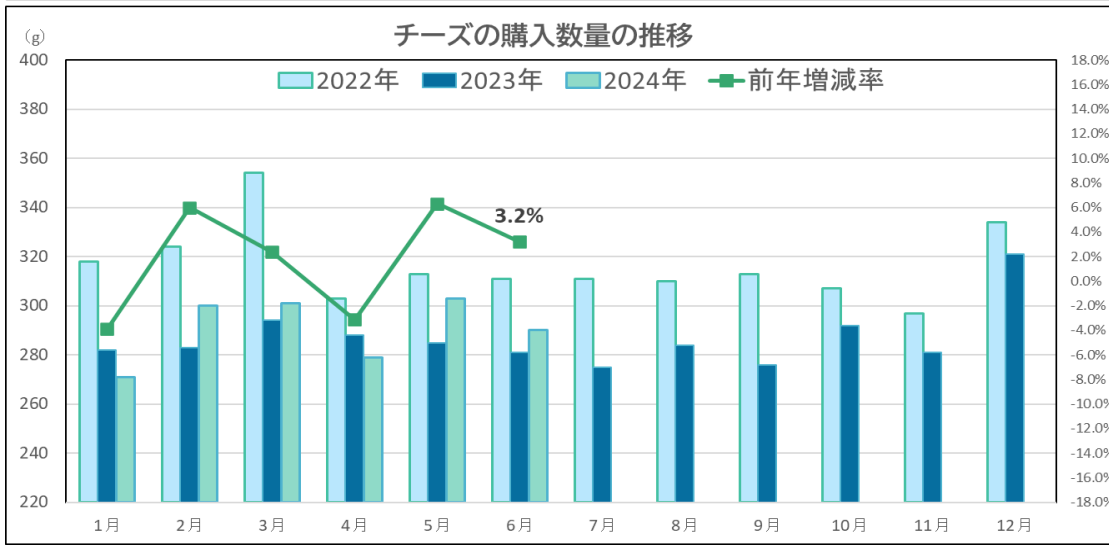
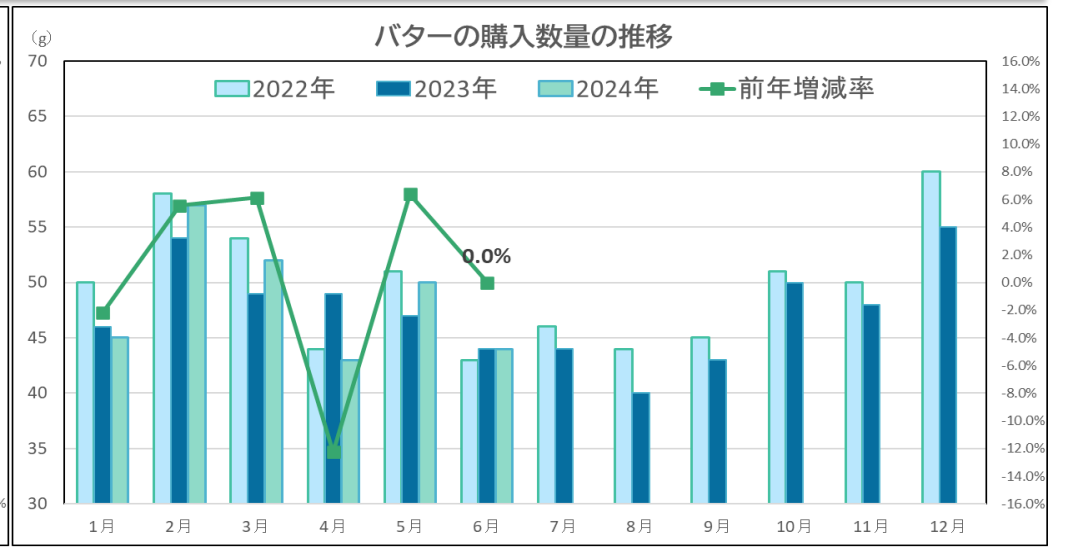
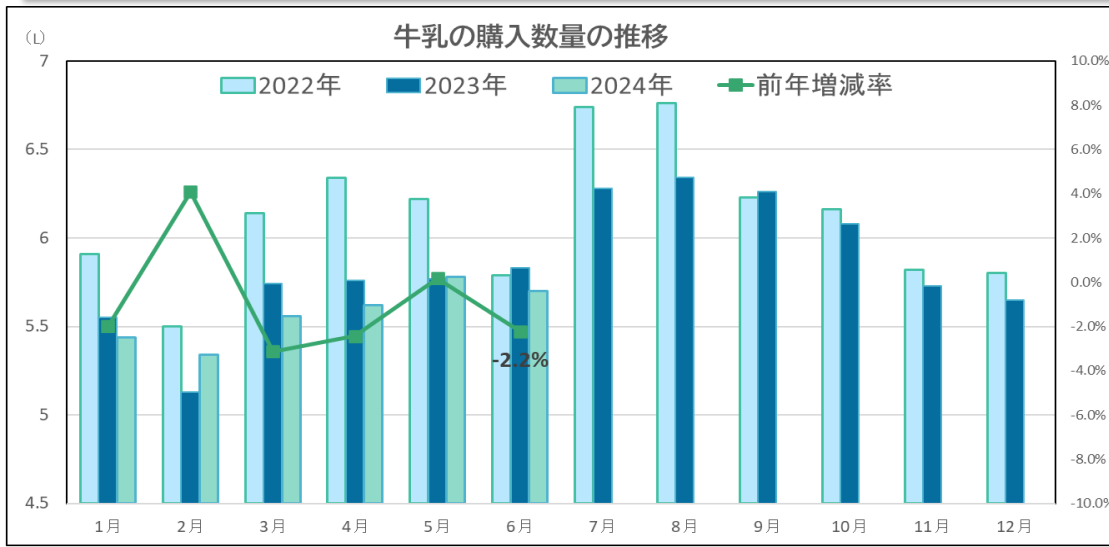
- (1) 6月の支出額前年比について、外食116.1%、中食103.2%、内食103.4%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は105.2%となった。
- (2) 牛乳乳製品の支出額も前年比103.4%(うち牛乳103.0%、乳製品103.6%)と前年を上回った。
- (3) なお、購入量は、牛乳97.8%(1世帯当たり5.7L)と2カ月ぶりに前年割れ。バターやチーズ、発酵乳などは前年超えとなった。

※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



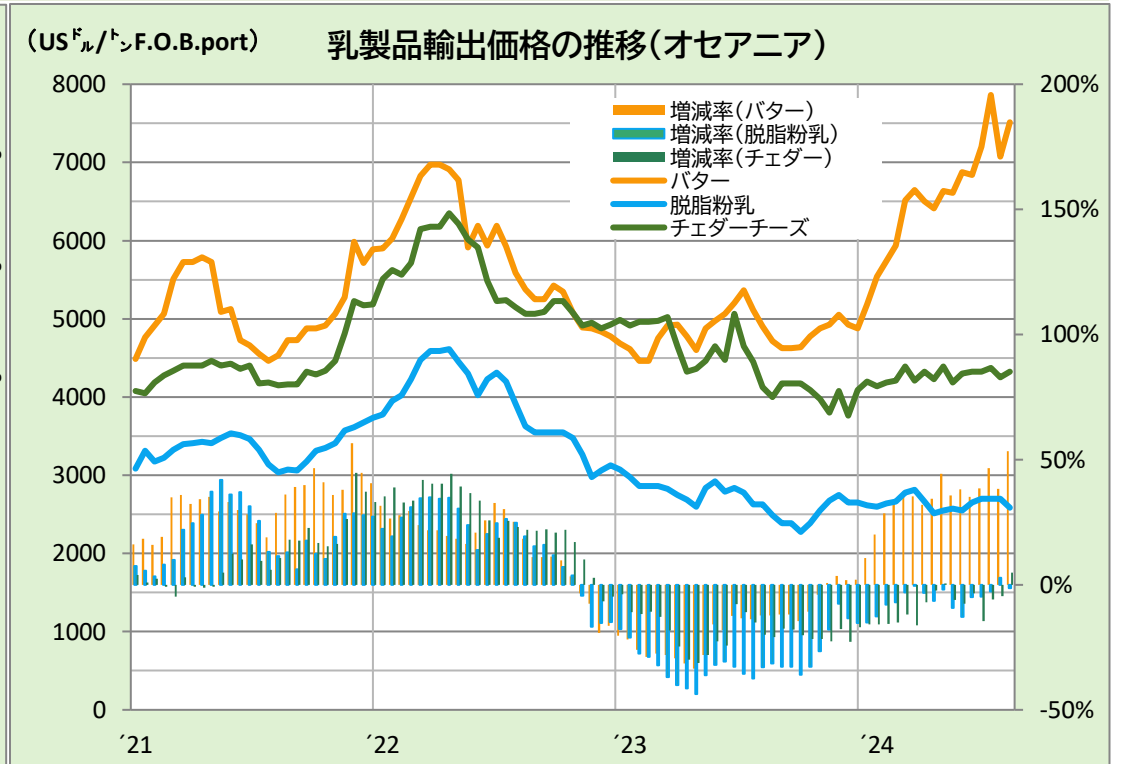
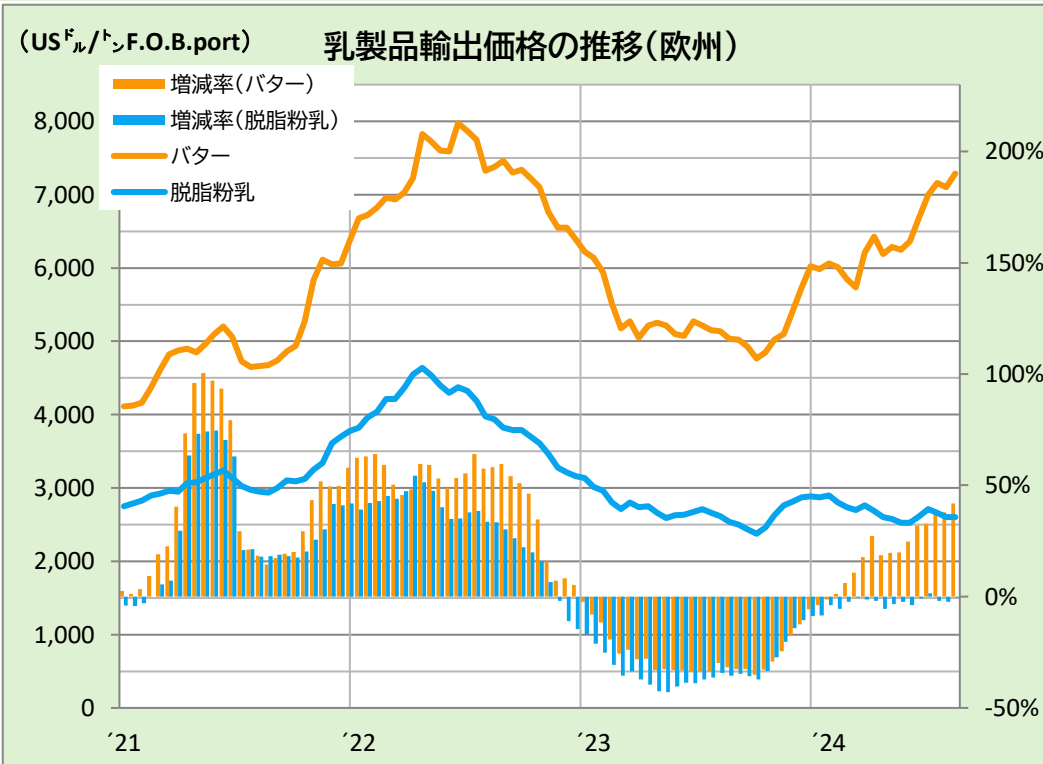


【乳製品輸出価格の動向】

(1) 直近の乳製品国際相場について(7月下旬)

- ・欧州: 脱脂粉乳2,600ドル/ト、バター7,288ドル/ト中心
- ・オセアニア: 脱脂粉乳2,588ドル/ト、バター7,513ドル/ト、チェダーチーズは4,325ドル/ト中心

※出典: 米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」